

月刊 やちまなこ

2016.6.15 発行

No. 223

6 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湿原散歩

霧が消え、陽が射す湿原の新緑が一斉に輝き始めた。暫くするとエゾハルゼミの鳴き声や鳥たちの鳴き声が辺りから聞こえてきた。花の種類も増え、昆虫が盛んに飛び交う日、子育てに忙しいノビタキを見た。嘴に餌をくわえ巣に戻ろうとしたとき、上空にカッコウが姿を見せたため、ノビタキは鳴きながら自分の体より大きな相手に向かい何度も追い払っていた。やがてカッコウが何処かへ消え、ノビタキは何事もなかったように巣へと戻って行った。

コッタロ川と湿原のほとりから

192 6月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

薫風に運ばれてくる芳香は、こぼれ咲く百花達のエゾ地に生きる逞しさの証しでもあり、“花に目をモーツァルトに耳奪られ”てしまったり、“花筏乗せてコッタロ川下り”や、屋敷林からの“ワタドロの綿めくりつつ風光る”様子にうっとりしているとまばゆい昨今です。つい先頃迄“新緑のおもてなし受け帰る客”を見送ったのも束の間、またたく間に万緑滴る季節へと早変わり。気圧の谷の通過で氷点下すれすれの朝の気温に震え乍らも植物達の勢は止まらず、コゴミ→フキ→ワラビの順に伸び放題！草刈りガマで刈れども刈れども芽吹き続ける大自然の活力には抗いきれませんね。

さて、この時季の話題と云えば、例年、湿原の営巣地で孵化した丹頂のヒナ等の動向でもち切りのところですが、残念無念、コッタロ川最上流部の4つがいいには、一羽のヒナも誕生しておりません。4月18日から三度目の営巣に入ったままの第1コツ&タロは、32日間をとうに過ぎた今日(10日)になっても抱卵中。かつて無精卵を105日間抱き続けた末にようやくと断念した経歴の持ち主だけに、悪夢がよぎります。一方、第2コツ&タロも三度の失敗の後、四度目に挑戦しようと交尾をくり返してはありますが、どうなることやら…。又、第3、第4コツ&タロのエリアには例年になく多くの若ヅル達が営巣地を求めて厳しいナワバリ争いを延々と続けた結果、産卵どころではなかったのでしょうか。やけに静まりかえったこのせまい湿原に現在滞在しているのか否か…。

ところで、いの一番に最初のヒナを巣立たせたのは雀♂♀で、二度目の抱卵中。子雀達の育つ早さに驚かされるではありませんか。庭を占領しているのは子雀ばかり。その雀♂♀の度重なる交尾と、電線にて交尾中のショウドウツバメをパチリ。“初夏の囀り高しツバメ哉”。ここでは珍しい百舌のツーショットを初めて撮ることが出来ましたので御覧下さい。

特筆すべきは近年激減していた為に全滅したかに思えたクシロクロユリが何年かぶりに復活して群落を形成しているのを確認し嬉しい限り。その根元には今春早々と星形のうす紫の小花を咲かせていた筆リンドウも地面を飾っていたのです。



湿原の住人たち その183

今年は5月下旬から、塘路湖岸の林縁の湿地で、フタマタイチゲが咲き始めました。花期は6～7月なのでもう少し楽しめるはずですが、塘路の花園は、雨の影響で湖の水位が上がると見られなくなってしまう場所にあるため、その後、観察できずにいます。キンポウゲ科の仲間である春の妖精と呼ばれるウラボロイチゲやヒメイチゲと比べると、初夏に咲くフタマタイチゲの葉は若干肉厚で、草丈も高く力強い感じがします。二又になった茎の間から花柄が伸びて花が一輪咲きます。

フタマタイチゲ



新緑の湿原バードウォッチング

6月4日午前10時から茅沼蝶の森周辺で、音成邦仁氏（タンチョウコミュニティ代表）を講師に「新緑の湿原バードウォッチング」を行いました。雨が降ったりやんだりの天気でしたが、散策路にはカッコウやツツドリなど多くの野鳥のさえずりが響いていました。灰色の羽がずぶ濡れで黒く見えるゴジュウカラや木の葉の下で雨宿りしているようなコムクドリ、セミを食べているヒヨドリなど、声だけの確認も含めて22種の野鳥を観察しました。



湿原と林と草地の環境があるコースなので、境目の場所は様々な鳥が見られることや、鳥の習性や好む環境を知ると見つけやすくなると教わりました。(参加者11名)

つぼっちの塘路湖周辺うろうろ日記 Vol.89「音足らず・・・？」

塘路の6月を迎えようやく初夏が訪れつつあります。この時期の特色と言えば、ツバメの大乱舞と、様々な野鳥たちのさえずりの競演。日が落ちても塘路では、ツツドリやカッコウ、オオジシギの鳴き声が木霊しています。

夕刻にうろうろしていたところ・・・「ズピーズピーズビャーク」と、オオジシギ独特の鳴き声が近くから聞こえてきました。しかし何度聞いてもその後に続く尾羽が風を切り裂く「ゴゴゴー、ブーン」という音が聞こえません。不思議に思っていると、近くの電柱の上にオオジシギがとまっている姿を確認。なるほど！飛んでいないので最後の風を切り裂く「ゴゴゴー」がなかったのかと気づきました。

ひたすら「ズピーズピー」と鳴き続けるオオジシギ。近い距離でオオジシギを観察できたのは良いのですが、いつもと違って鳴き声が音足らずに感じ、物足りなく思いました。

坪岡 始（標茶町郷土館学芸員）

6 がつ 7 にち

ばしよ 塘路市街

声とは対照的に姿は地味なオオジシギ



7月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

縄文土器作り講座

[日時] 7/9 (土) 10:00~14:00

[定員・参加料] 15名・300円

〔持ち物〕 エプロン、手拭きタオル、昼食

〔集合場所〕 塘路湖エコミュージアムセンターレクチャールーム

*塘路周辺には縄文時代の遺跡があり、出土した土器を参考に縄文土器を作ります。

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ 申し込み問い合わせは 塘路湖エコミュージアムセンターまで TEL 015-487-3003

初夏の湿原花ハイク

[日時] 7/3 (日) 10:00~12:00

[illegible]

塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(5/16)エゾキケマン、オオバナノエンレイソウ、ミヤマエンレイソウ、フッキソウ (5/20)イタヤカエデ (5/21)エゾオオサクラソウ、ツマトリソウ、エゾクサイチゴ、センボンヤリ、フデリンドウ (5/24)ハイキンポウゲ、エゾノウワミズザクラ (5/29)ミヤマザクラ (5/30)フタマタイチゲ、シャク (6/1)エゾノコリンゴ (6/7)バイケイソウ、ギョウジャニンニク (6/10)アヤメ、カキツバタ、スズラン、ヒメイズイ、シコタンキンポウゲ、エゾカンゾウ、エゾスカシユリ、ヒメカイウ、ワタスゲ(実)、オオカサモチ、ミツバウツギ (6/12)クリンソウ

【鳥】(5/18)カワラヒワ (5/21)アカエリカイツブリ、オオルリ、ヨシガモ、ヒガラ、アカゲラ (5/23)カッコウ
(5/27)キビタキ、オシドリ (5/29)アリスイ、コヨシキリ (5/30)オシドリ、カワセミ、ツバメ、オジロワシ (6/3)
ビンズイ、ミソサザイ (6/4)ヒヨドリ、キバシリ、コムクドリ、アマツバメ (6/12)ショウドウツバメ、マガモ

【その他】(5/21)エゾハルゼミ、モンズズメバチ、キアゲハ、エゾスジグロシロチョウ (5/24)ミヤマセセリ
(5/28)シマヘビ (5/29)コサナエ、ヨツボシトンボ (6/11)クロイトトンボ

■温根内ビジターセンターからお知らせ。

6月13日（月）～19日（日）までの7日間は仮設ビジターセンターへ移行工事のため臨時閉館します。

6月20日（月）から仮設ビジターセンターを開館します。

◆日出・日入時間 6/15(3:43, 19:03). 6/30(3:46, 19:05). 7/14(3:56, 19:00)



サルルン沼付近のワタスゲ (6/10)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこつと

☎088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail: emc@hokkai.or.jp

開館時間 10：00～17：00（11月～3月は16：00まで）

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料